





AGC、いつも世界の大事な一部

独自の素材・ソリューションで、
いつもどこかで世界中の人々の暮らしを支えます



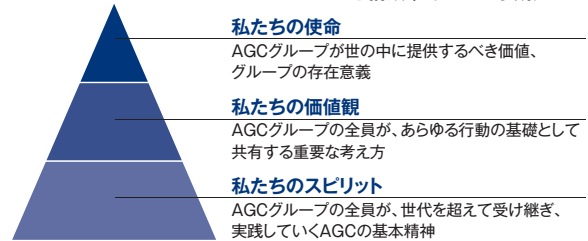
“Look Beyond”

“Look Beyond”は、AGCグループのすべての事業活動、社会活動を貫く企業理念です。
“Look Beyond”には、次の想いが込められています。

- “Look Beyond” 将来を見据え
- “Look Beyond” 自らの領域を超えた視点を持ち
- “Look Beyond” 現状に満足せず飽くなき革新を追求し

グループ全体が持つ大きな潜在力を発揮し、世界に価値を提供し続けます。

“Look Beyond”を構成する3つの要素



私たちの使命

AGC、いつも世界の大事な一部

～独自の素材・ソリューションで、いつもどこかで世界中の人々の暮らしを支えます～

私たちAGCグループは、幅広い素材・生産技術に基づく独自の素材・ソリューションを提供し、お客様と長期的な信頼関係を築き、お客様から最初に声がかかる存在であり続けます。そして、お客様や社会にとって“無くてはならない製品”を提供し続け、いつもどこかで、世界中の人々の暮らしを支えます。

私たちの価値観

革新と卓越 インノベーション & オペレーショナル・エクセレンス

- 既成の概念や枠組みにとらわれない発想で、常に革新的な技術、製品、サービスを追求します。
- 常にお客様の視点に立つとともに、社会や市場の変化を予測し、潜在的・将来的なお客様のニーズに応える、新たな価値を創造し続けます。
- あらゆる活動において最高の効率と品質を目指して不断の改善を行い、常に、実現し得る最高の仕事をします。

多様性 ダイバーシティ

- 多様な能力、個性を持った個人々人を尊重し、国籍、性別、経歴にこだわらないグローバル経営を展開します。
- 人種、民族、宗教、言語、国籍にこだわらず、多様な文化を尊重します。
- 常に異なった視点・意見を尊重します。

環境 エンバイロメント

- 善き地球市民として、自然との調和を目指し、持続可能な社会づくりに貢献します。
- 安全で健康的な職場環境の向上に努めます。

誠実 インテグリティ

- 高い倫理観に基づき、あらゆる関係者と透明・公正な関係を築きます。
- 法令や規制を厳格に遵守します。
- 提供するあらゆる製品・サービスについて、お客様の満足と信頼を得るための責任を全うします。

私たちのスピリット

“易きになじまず難きにつく”

1907年に旭硝子を創設した岩崎俊彌が唱えた創業の精神です。




代表取締役・社長執行役員CEO
島村 琢哉

AGCグループの歴史は、今から100年以上前に、人々の暮らし、わが国の産業の発展に向けて国産板ガラスの製造に挑戦したことに始まります。以来、ガラス、電子、化学品、セラミックスなどの事業分野で技術とノウハウを蓄積し、建材や自動車、エレクトロニクスなど幅広い産業界へソリューションを提供してきました。また、1950年代のインド進出をはじめ、アジア、欧米、そして南米への事業展開を進めてきました。現在

では、世界各地の従業員が、各国の経済・社会の発展に貢献しています。このようにモノづくりの強みを活かした独自の素材・ソリューションを提供し、社会に貢献していくことこそ、当社グループの原点です。

われわれを取り巻く経営環境が大きく変化するなか、こうした当社グループの原点をこれからも忘れることなく、役員・従業員が一丸となって価値創造に取り組んでいくため、2016年2月、「2025年のありたい姿」



多様な技術を活かした素材・ソリューションを提供し続け、
世界中の人々の暮らしに貢献していきます。

を策定しました。この「2025年のありたい姿」は私が
思い描く10年後の当社グループのありたい姿である
とともに、その実現のための経営戦略でもあります。

高収益なグローバル優良素材メーカーでありたいと
いう「2025年のあるべき姿」の実現に向け、今後もさ
まざまなイノベーションを創出し、社会にとって“無くて
はならない存在”として、新たなソリューションを提供し
続けてまいります。そして地球社会の未来を見つめ、

その持続的な発展のために強い意志を持って取り組
んでまいります。これからも、AGCグループにどうぞ
ご期待ください。

代表取締役・社長執行役員CEO

島 村 琢 哉

「コア事業」の強化と「戦略事業」の拡大で “2025年のありたい姿”を実現します。

AGCグループは、「2025年のありたい姿」とその実現に向けた長期経営戦略を2016年2月に策定しました。

長期経営戦略では、ガラス、化学品、ディスプレイ、セラミックスといった長期安定的な収益基盤となる「コア事業」と、モビリティ、エレクトロニクス、ライフサイエンスをターゲット領域とした高い成長を目指す「戦略事業」を“ありたい姿”を

実現するうえでの2つの柱に設定しました。常にお客様からの期待に応え信頼を高め続けることを基本に、戦略的なM&Aを含め価値創出・成長に向けた投資や、資産効率を重視したメリハリのある経営資源配分を行います。

AGCグループは、これからもお客様や社会に価値を提供し続け、高収益のグローバル優良素材メーカーを目指します。

2025年のありたい姿

コア事業が確固たる収益基盤となり、
戦略事業が成長エンジンとして一層の収益拡大を牽引する、

高収益のグローバルな優良素材メーカーでありたい

基本戦略 1 コア事業

ポートフォリオ経営の徹底による
長期安定的な収益基盤を構築

建築用ガラス

自動車用ガラス
(既存)

ディスプレイ

基礎化学品

フッ素化学品

セラミックス

基本戦略 2 戦略事業

高付加価値ビジネスの拡大による
高収益事業の確立

モビリティ

エレクトロ
ニクス

ライフ
サイエンス



AGCグループの強み

幅広いお客様基盤

ガラス・電子・化学・セラミックスの
幅広い素材技術

生産技術開発力と
オペレーショナルエクセレンス

基本戦略 1 コア事業

ポートフォリオ経営を徹底

現在AGCグループの基幹事業となっている建築用ガラスや自動車用ガラス、化学品、ディスプレイなどのコア事業は、事業ポートフォリオに基づくメリハリある資源配分を徹底しつつ、M&Aを含めた成長投資も行い、長期安定的な

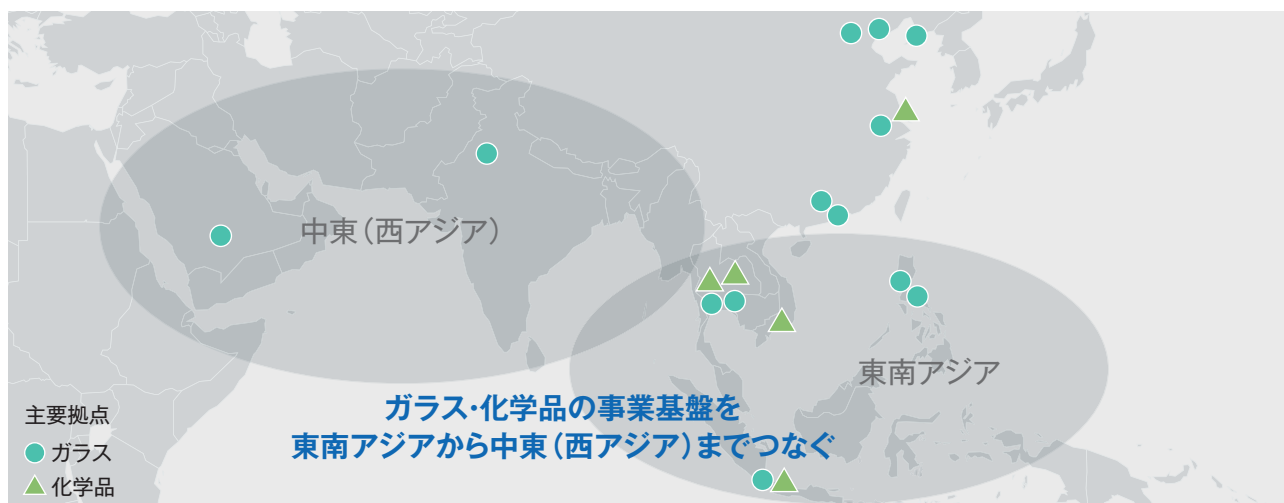
収益基盤を構築します。

特にアジア地域では、高いプレゼンスを持つタイやインドネシアなどでのガラスや化学品の事業活動を東南アジアから中東（西アジア）まで面をつなぎ、アジア地域の成長をAGCグループの成長機会として取り込んでいきます。

コア事業の強化に向けた基本戦略

コア事業	基本戦略
建築用ガラス	<ul style="list-style-type: none"> ●成長地域・勝てる地域への選択と集中 ●ビジネスモデルの革新により、高資産効率事業へ転換
自動車用ガラス(既存)	<ul style="list-style-type: none"> ●エコカー・自動運転化に伴うガラスの高機能化ニーズへの対応 ●M&Aなどによるさらなるグローバル展開
ディスプレイ	<ul style="list-style-type: none"> ●液晶用ガラスの需要地シフトに伴う最適生産拠点の構築 ●新規ディスプレイ用途への展開
基礎化学品	<ul style="list-style-type: none"> ●クロールアルカリ事業の東南アジアでのさらなる基盤強化
フッ素化学品	<ul style="list-style-type: none"> ●高機能素材のグローバル需要増を取り込み成長
セラミックス	<ul style="list-style-type: none"> ●素材にエンジニアリングとサービスを組み合わせた新たな価値提供 ●東南アジアでの拠点構築とグローバル販売の拡大

アジア地域における成長戦略



基本戦略 2 戦略事業

高付加価値ビジネスを拡大

戦略事業については、モビリティ、エレクトロニクス、ライフサイエンスの3領域をターゲットとして、より付加価値の高いソリューションを提供していきます。

モビリティ領域では、自動車のICT(注1)化や交通インフラの革新、新たなエコシステムの構築に貢献するソリューションを提供していきます。また、エレクトロニクス領域では、さ

まざまなモノがインターネットでつながるIoT(注2)社会を見据え、デジタルカメラ向け光学部材やサイネージ関連製品・技術の提供によって、入出力デバイスの多様化や通信の高速化、記録媒体の高密度化に貢献していきます。さらにライフサイエンス領域でも先進医療や将来危惧される食糧不足問題へのソリューションを提供していきます。

(注1) ICT: Information and Communication Technologyの略。情報通信技術
(注2) IoT: Internet of Thingsの略。モノのインターネット

ターゲット領域におけるAGCグループのソリューション

社会環境の変化	ターゲット領域	市場の変化	AGCグループのソリューション
<ul style="list-style-type: none"> ● 交通インフラの進化 ● すべてのモノがつながる ● 誰もがいつでもつながる ● 長寿命化 ● 世界人口の増加 ● 安全・安心・快適の追求 	モビリティ	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車とICTの融合 ● 交通エコシステムの革新 	 車内のICT化  交通インフラの革新  新たなエコシステムの構築
	エレクトロニクス	<ul style="list-style-type: none"> ● 入出力デバイスの多様化 ● 通信の高速化、記録媒体の高密度化 	 入力デバイスの進化  出力デバイスの革新  ビッグデータ社会の実現に貢献
	ライフサイエンス	<ul style="list-style-type: none"> ● 先進医療と低コスト医療へのニーズの二極化 ● 食糧不足、食への安全意識の高まり 	 高品質・高信頼の医薬中間体  先端医薬の供給  先進医療の実現

中期経営計画“AGC plus-2017”を推進し 長期的な成長の基盤を築いています。

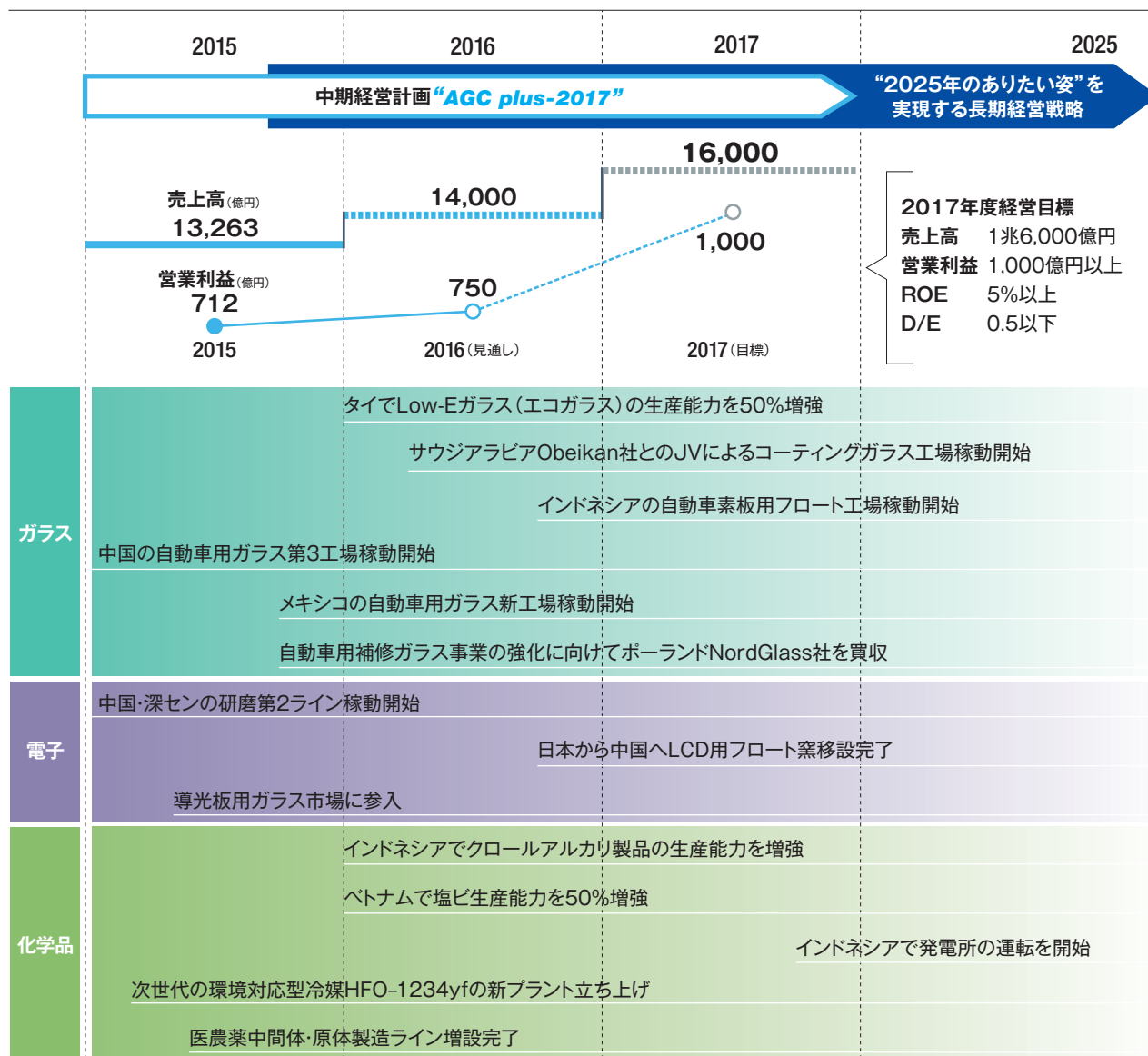
AGCグループは、各事業の収益性・成長性を基軸とした事業ポートフォリオに基づく戦略の推進とメリハリのきいた資源配分によって、中期経営計画“AGC plus-2017”における経営財務目標の達成を目指しています。

2015年は中長期の成長に向けた地固めの年として、インドネシアでの発電所建設に対する投資を決定したほか、ポーランドでの自動車補修用ガラス事業の買収など、各事

業で成長領域・地域への投資を積極的に進めました。また、事業ポートフォリオのバランスは、欧米建築用ガラス事業の構造改革による業績改善で着実に変化しています。

2016年から2017年にかけては、この1~2年に実施したインドネシアや中国などでの投資の成果に加え、自動車内装用のカバーガラス、カーエアコン用の新冷媒、ライフサイエンスなど新事業・新製品の伸長でさらなる成長を目指します。

中期経営計画“AGC plus-2017”の進捗

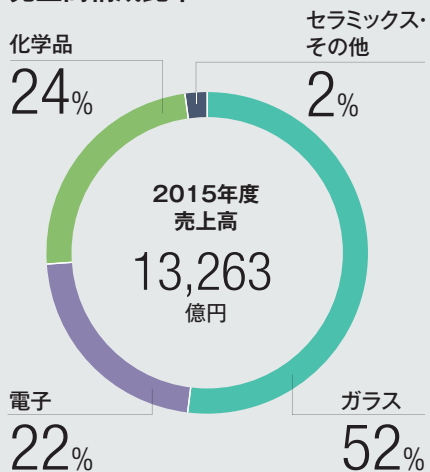


事業概要

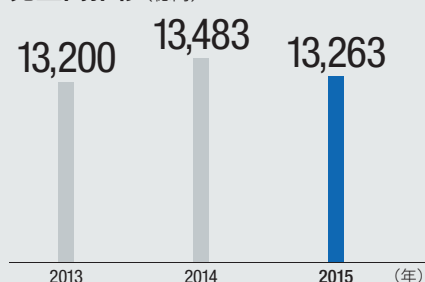
「ガラス」「電子」「化学品」「セラミックス」の事業領域で新たな価値創造に挑戦しています。

AGCグループは、ガラス・電子・化学品・セラミックスの4つの事業領域でグローバルに事業活動を展開しています。100年以上にわたる技術革新の歴史のなかで培った世界トップレベルの技術とノウハウを強みに、建築用ガラス・自動車用ガラスをはじめ、液晶ディスプレイ用ガラス、電子機器用部材、また化学品やセラミックスといった高機能素材など、多種多様な製品を幅広い産業のお客様に提供するとともに、ガラス・素材メーカーならではのソリューションを提案。豊かな社会を実現する新たな価値創造に挑み続けています。

売上高構成比率^(注1)



売上高推移^(億円)



(注) 数値データは国際会計基準(IFRS)ベース(対象組織:旭硝子株式会社および連結子会社/対象期間:各12月31日に終了した事業年度)

(注1) 売上高構成比率は外部顧客への売上高にて算出しています。

事業セグメント

ガラス



電子



化学品



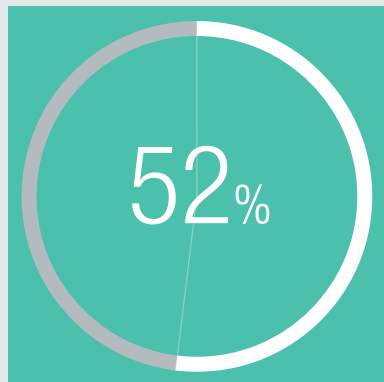
セラミックス・その他



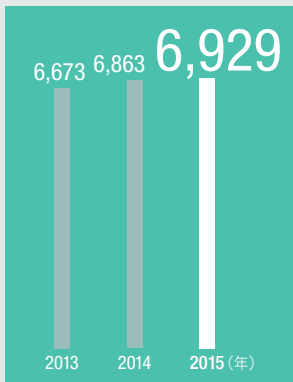
会社概要 (2015年12月末現在)

通称社名	AGC旭硝子 AGC ASAHI GLASS	設立	1950(昭和25)年6月1日
登記社名	旭硝子株式会社 ASAHI GLASS CO., LTD.	資本金	90,873百万円
本社所在地	〒100-8405 東京都千代田区丸の内1丁目5番1号	発行済株式総数	1,186,705,905株
創立	1907(明治40)年9月8日	従業員数	50,852名(連結) 5,973名(単独)
		グループ連結会社数	204社(うち海外166社)

売上高構成比率(注1)



売上高推移(注2) (億円)



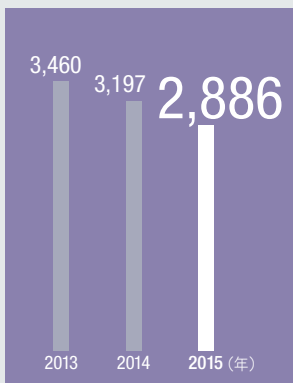
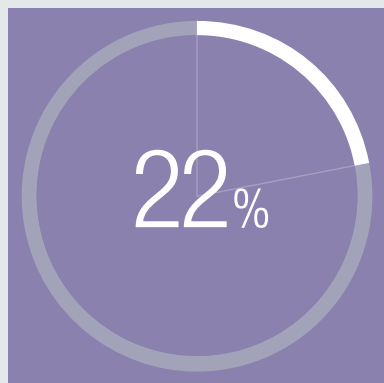
主要事業・分野／主要製品

建築用ガラス

- フロート板ガラス
- Low-E(低放射)ガラス
- 遮熱・断熱複層ガラス
- 安全ガラス
- インテリアガラス など

自動車用ガラス

- 自動車用強化ガラス
- 自動車用
合わせガラス など



ディスプレイ

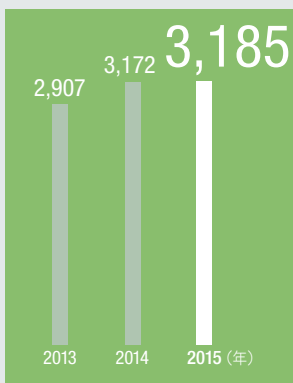
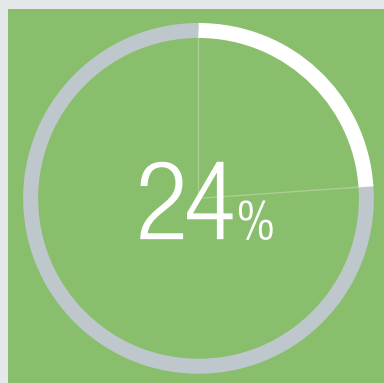
- TFT液晶用ガラス基板 など

電子部材

- 色調補正用フィルター
- CMPスラリー
- 合成石英ガラス
- ガラスフリット／ペースト
- ガラスモールドレンズ など

先進機能ガラス

- 電子機器用
カバーガラス
- 電子機器用
薄板ガラス
- 導光板用ガラス
- 太陽電池用
ガラス など

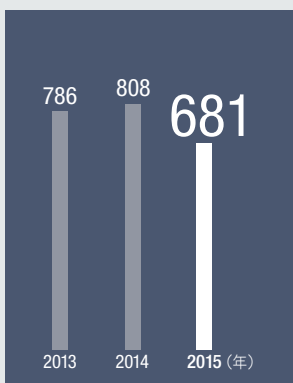
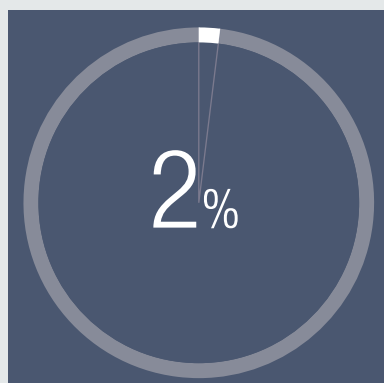


クロールアルカリ・ウレタン

- 塩化ビニール材料
- 苛性ソーダ
- ウレタン原料 など

フッ素・スペシャリティ

- フッ素樹脂・フィルム
- 撥水撥油剤
- 医農薬中間体・原体
- ヨウ素製品 など



セラミックス

- 各種耐火材料
- ファインセラミックス
- スパッタリング
ターゲット など

物流、エンジニアリング
など

(注2) セグメント別売上高は消去前の数値につき、合計しても全社売上高とは一致しません。

製品用途

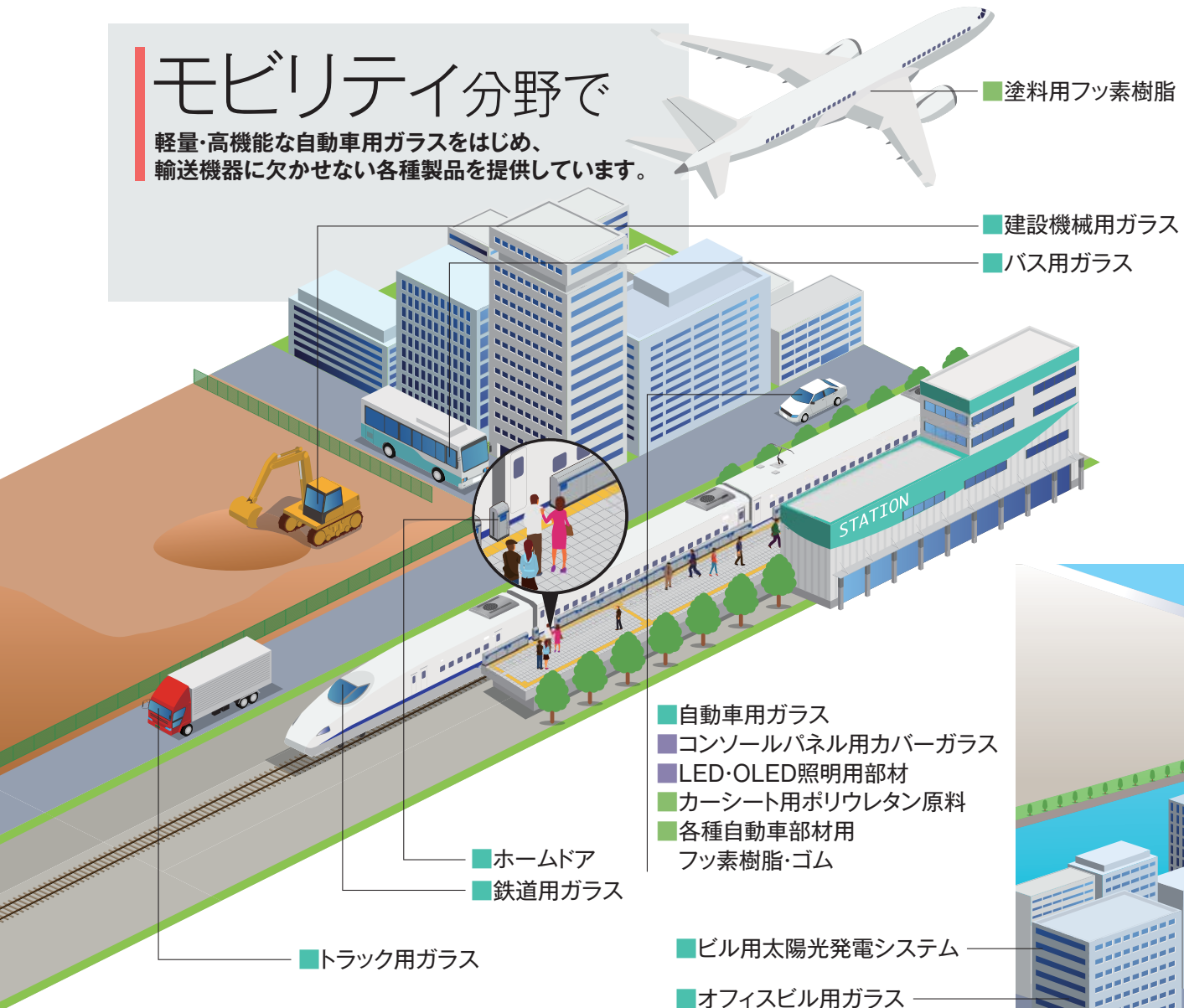
さまざまな場所で、さまざまなシーンで。多彩な製品が安全・快適で持続可能な社会を支えています。

主要製品

■ ガラス ■ 電子 ■ 化学品 ■ セラミックス・その他

モビリティ分野で

軽量・高機能な自動車用ガラスをはじめ、輸送機器に欠かせない各種製品を提供しています。



建築・社会インフラ分野で

安全・安心で快適な空間づくりに貢献する建築材料や、社会インフラを支える工業用素材などを提供しています。



■ 光学機器用ガラス部材

■ ディスプレイ用ガラス基板

■ ストレージ機器用ガラス部材

ディスプレイ・光学機器分野で

ビジネスのさまざまなシーンで活躍する電子機器などの素材・部材を提供しています。

■ ディスプレイ用ガラス基板

■ 電子機器用カバーガラス

■ 光学機器用ガラス部材

■ ディスプレイ用ガラス基板

■ 電子機器用カバーガラス

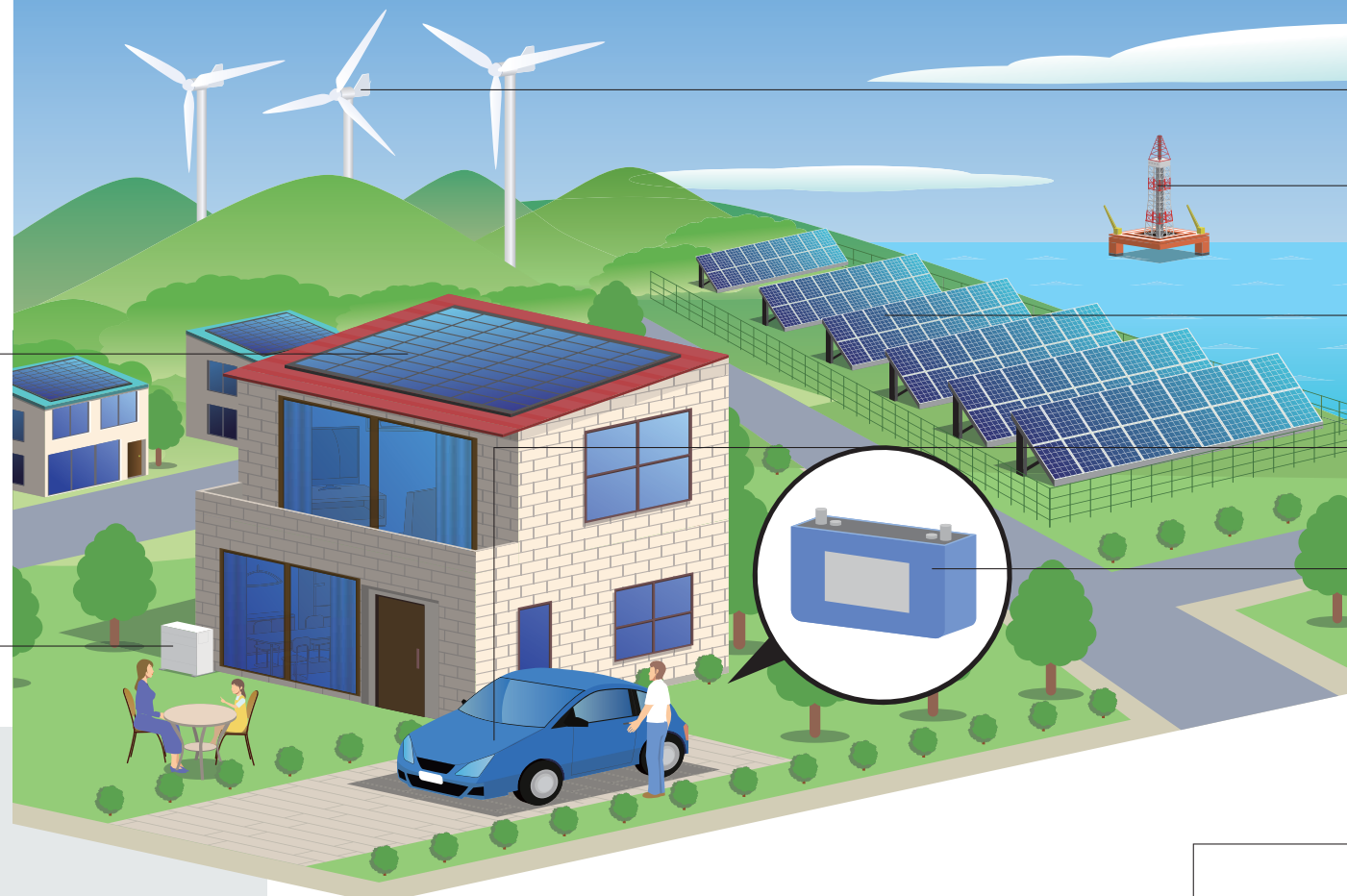
■ ディスプレイ用ガラス基板

■ デジタルカメラ用光学部材

■ ディスプレイ用ガラス基板

■ 電子機器用カバーガラス

■ 光学機器用ガラス部材



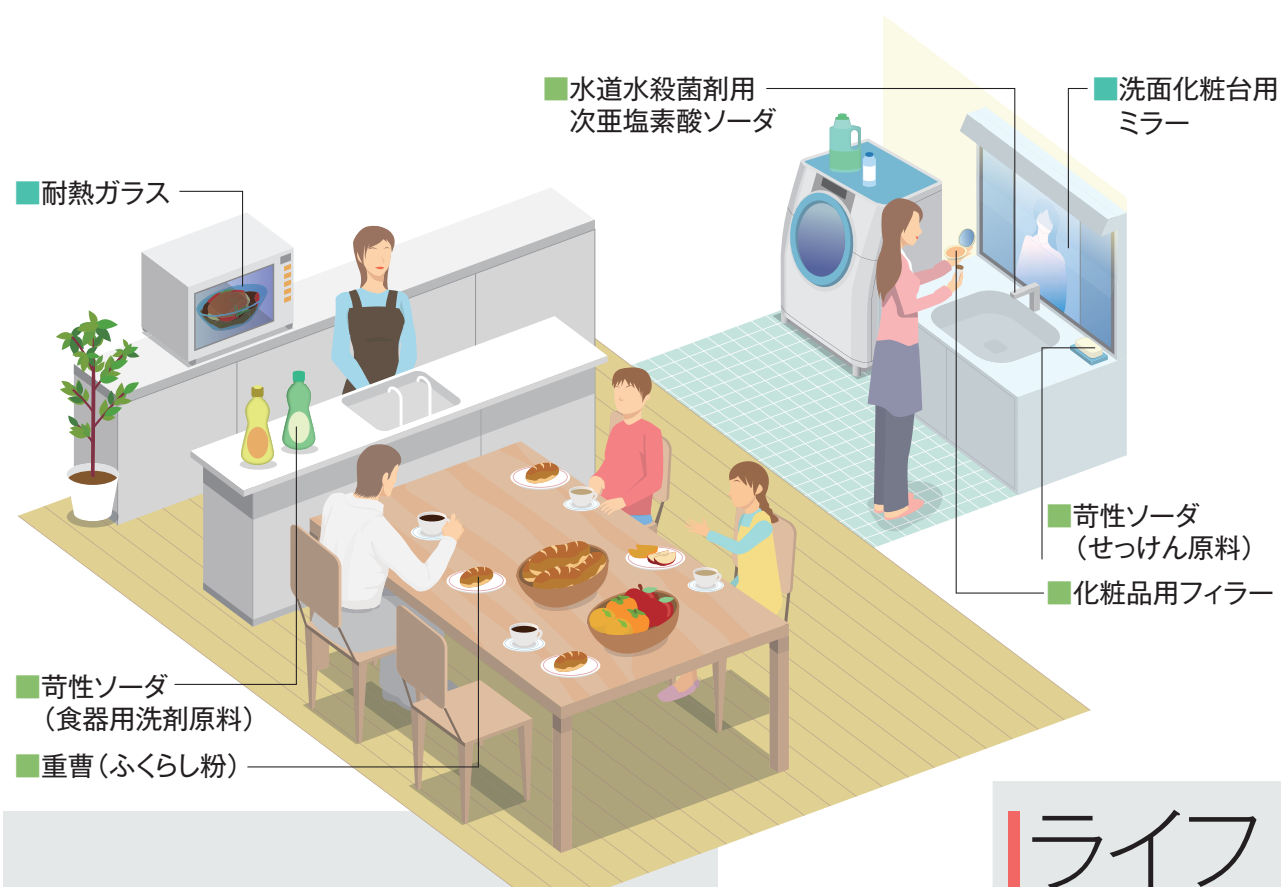
- 超軽量太陽電池モジュール
- ソーラー発電用軽量カバーガラス
- 太陽電池保護用フッ素樹脂フィルム

■ 燃料電池関連部材

- 塗料用フッ素樹脂
- 石油掘削機器部材用フッ素ゴム
- 太陽電池用TCO基板
- 太陽電池架台用
ガラス繊維強化プラスチック
- 高出力LED用ガラスセラミックス基板
- 燃料電池関連部材
- リチウムイオン電池材料

環境分野で

スマートシティやスマートモビリティの
実現に貢献する部材や技術を提供しています。



■ 耐熱ガラス

■ 水道水殺菌剤用
次亜塩素酸ソーダ

■ 洗面化粧台用
ミラー

■ 苛性ソーダ
(せっけん原料)

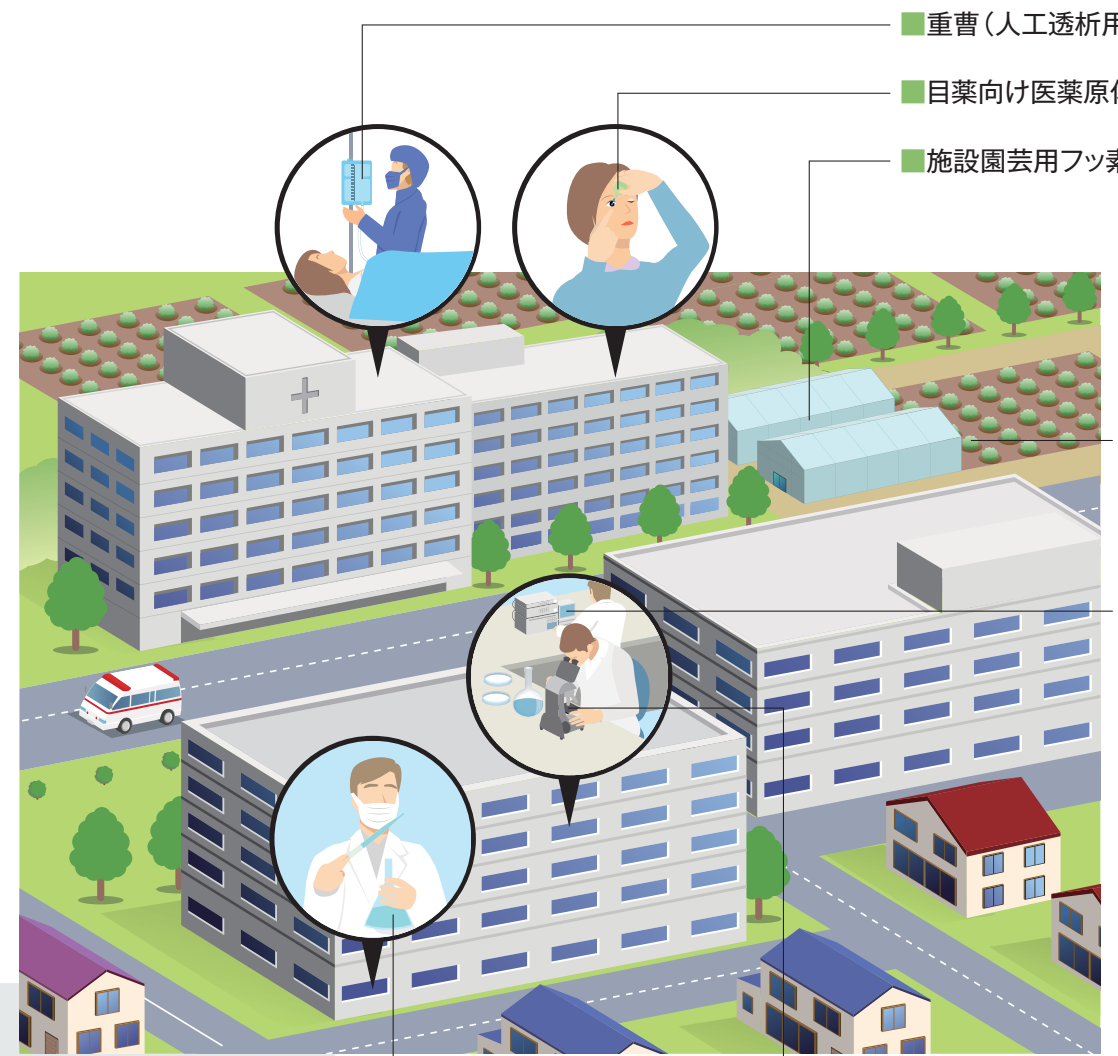
■ 化粧品用フィラー

■ 苛性ソーダ
(食器用洗剤原料)

■ 重曹(ふくらし粉)

生活関連分野で

便利で快適な生活を実現する日用品や
その製造に欠かせない各種素材を提供しています。



- 重曹(人工透析用輸液)
- 目薬向け医薬原体
- 施設園芸用フッ素樹脂フィルム

■ 農業原体

■ 液体クロマト
グラフィー
分析用
充填剤

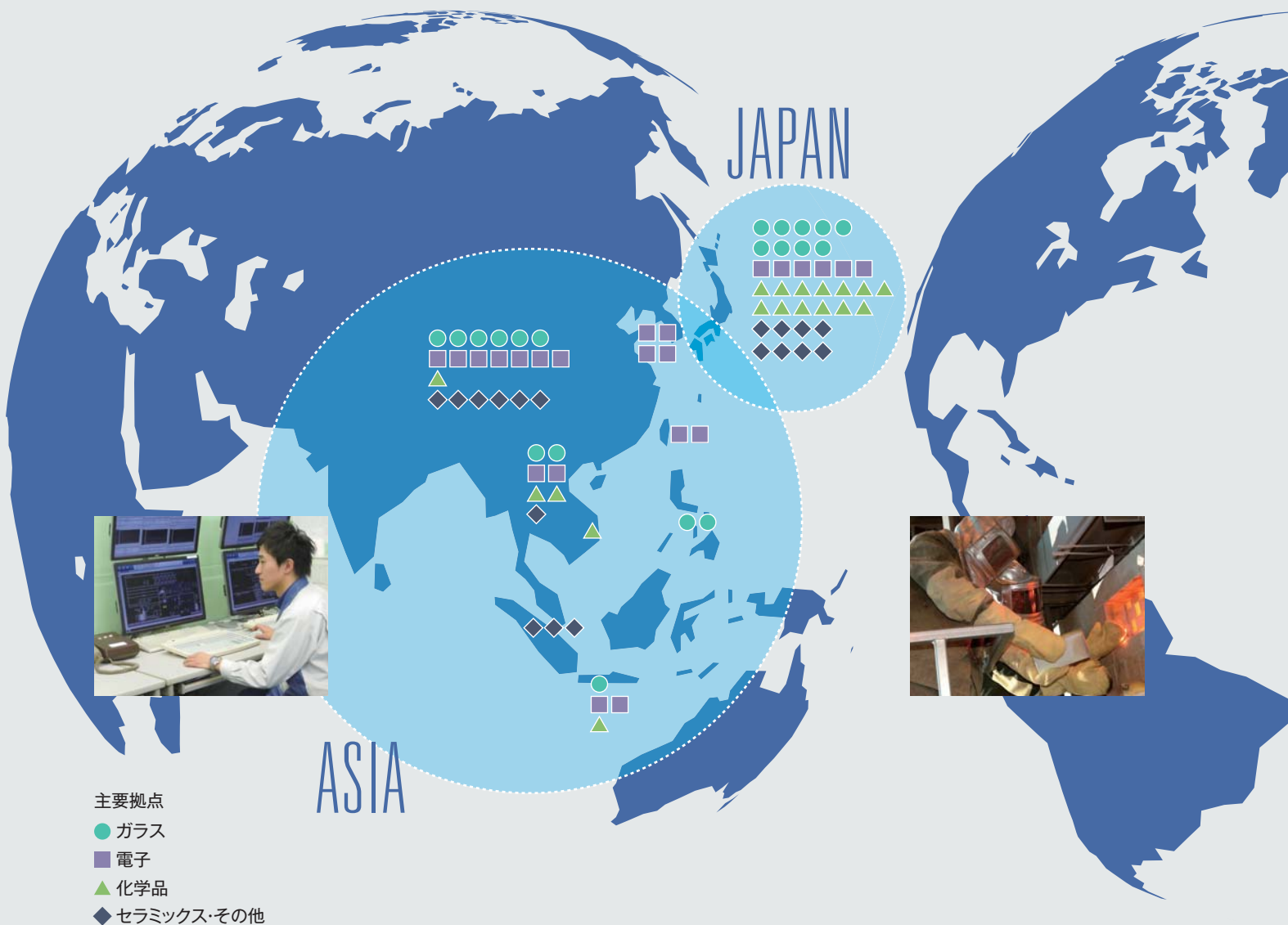
ライフサイエンス分野で

ライフサイエンス領域で用いられる医薬や農業、
各種設備向けの素材などを提供しています。

- バイオ医薬品原薬
- 理化学実験用ガラス器具
- 組織培養用容器
- 顕微鏡用プレパラート

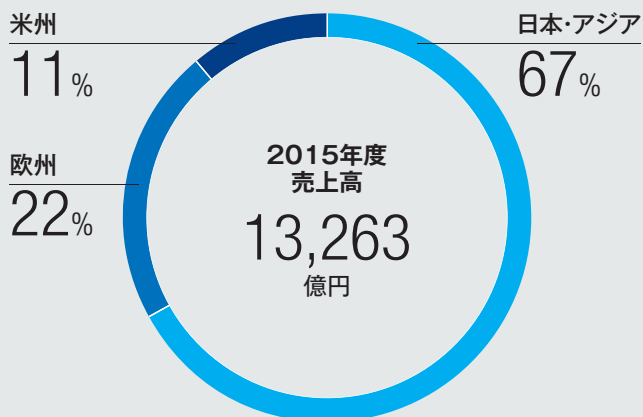
グローバルネットワーク

「日本・アジア」「欧州」「米州」の3極体制をベースに
グローバルなビジネス基盤を確立しています。



経済のグローバル化が進展するなか、AGCグループは「日本・アジア」「欧州」「米州」を活動のベースとして、30を超える国と地域でグローバルに事業を展開しています。例えば世界中に市場が存在するガラス事業では、日本・アジア、欧州、米州のそれぞれに開発・生産拠点を構築し、東アジアに顧客企業が密集する電子事業では日本・アジアを中心に開発・生産拠点を集中。さらに化学品事業では、インフラ整備が進展する東南アジアを中心に生産拠点の充実を図ってきました。AGCグループでは、これらのネットワークを活かしてより深く地域社会に密着した事業展開を図るとともに、新しい事業展開エリアの可能性を探索しています。

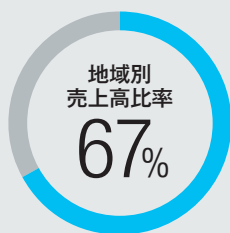
売上高構成比率^(注1) (2015年12月末現在)



(注1) 売上高構成比率は外部顧客への売上高にて算出しています。



日本・アジア

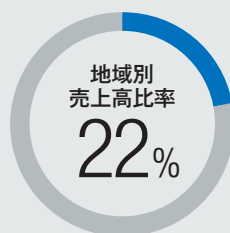


主要製品

- 建築用ガラス
- 自動車用ガラス
- ディスプレイ用ガラス
- 電子部材
- ▲ 化学品
- ◆ セラミックス

従業員数 約 30,600 名

欧州

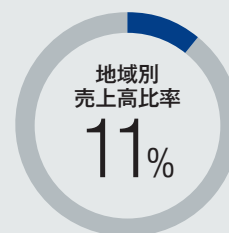


主要製品

- 建築用ガラス
- 自動車用ガラス
- ▲ 化学品

従業員数 約 16,200 名

米州



主要製品

- 建築用ガラス
- 自動車用ガラス
- 電子部材
- ▲ 化学品

従業員数 約 4,100 名

事業紹介

ガラス

「建築用ガラス」「自動車用ガラス」のリーディングカンパニーとして、各地域のニーズに応える多彩な製品・ソリューションをグローバルに提供しています。

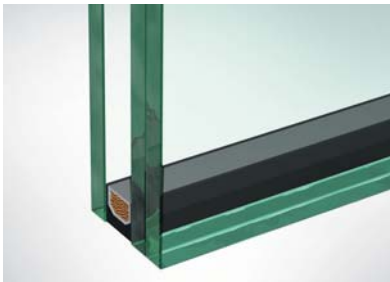
建築用ガラス事業

フロート板ガラスやそれに加工を施した建築用加工ガラス、インテリアガラス、ビル用太陽光発電システムなど多彩な製品を取り揃え、お客様や地域によって異なるニーズに柔軟に対応する

建築用ガラス事業。建築物の断熱・遮熱や、結露・反射の防止など、環境負荷低減や快適性向上を追求した機能ガラス製品の開発・販売にも注力し、世界市場でトップレベルのシェアを有しています。

主要製品の市場シェアランキング
(当社調べ/2015年度概算データ)

フロート板ガラス
世界No.1



高い断熱性と遮熱性を持つ
Low-E(低放射)合わせ複層ガラス



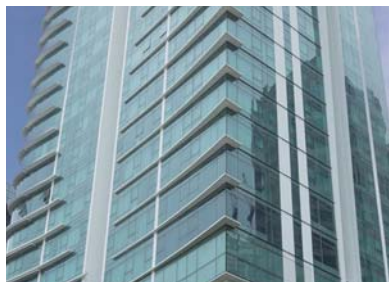
ビル・店舗などのリフォームに最適
現場施工型後付けLow-Eガラス「アトッチ®」



ガラスへの映り込みを抑える
低反射ガラス「クリアサイト®」



発色性に優れ、室内を明るく見せる
内装壁面用カラーガラス「ラコベル™」



あらゆる気候に対応する
コーティングガラス



ガラスに太陽電池を内蔵した
ビル用太陽光発電システム「サンジュール™」

自動車用ガラス事業

合わせガラスや強化ガラスなどの販売において、世界トップレベルのシェアを有する自動車用ガラス事業。グローバルなマーケティング機能と生産ネットワーク、最先端の技術を駆使して、製

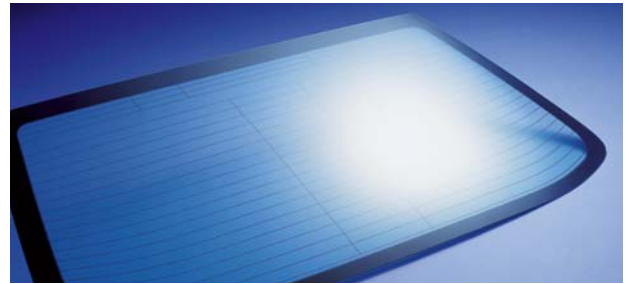
品の安全性やデザイン性、快適性、環境性能などを追求しています。そのラインナップは、UVカットガラスや赤外線カットガラス、ドア撥水ガラス、ガラスアンテナなど多岐にわたっています。

主要製品の市場シェアランキング
(当社調べ／2015年度概算データ)

**自動車用ガラス
世界No.1**



一般用板ガラスの数倍の強度を持つ
自動車用強化ガラス「テンバライト®」



割れても飛散しづらく安全性に配慮した
自動車用合わせガラス「ラミセーフ™」



世界初^(注)！車内の全ガラスで紫外線99%カット
安心・快適なクルマ空間を実現する
自動車用ガラス「UVベールPremium®」シリーズ
(注)当社調べ／2015年11月現在。
フロントガラス以外に単板ガラスを使用した場合



車内の快適性向上と省エネに貢献する
調光ガラス「WONDERLITE®」



高耐候性、高遮音性、高断熱性を実現
鉄道用ガラス

快適性向上、環境負荷低減などに加え、
意匠性なども追求する建築用ガラス

事業紹介

電子

高度な生産技術を駆使して、
エレクトロニクス産業の進化を支える
高付加価値製品・ソリューションを
提供しています。

ディスプレイ事業

TFT液晶用ガラス基板において世界第2位のシェアを持つディスプレイ事業。独自の製法と高度な生産技術でグローバルな競争力をより高めるとともに、次世代の映像表示デバイスの開発にも注力しています。

主要製品の市場シェアランキング
(当社調べ/2015年度概算データ)

TFT液晶用ガラス基板
世界No.2



液晶ディスプレイ用基幹部材
TFT液晶用ガラス基板

先進機能ガラス事業

それまでガラスと電子に分かれていた事業を統合し、市場に新たな価値を提供すべく2015年1月に立ち上がった先進機能ガラス事業。「薄く、軽く、そして強い」特殊ガラスの特長を活かし

た用途開拓に注力し、スマートフォン・タブレット端末向けの電子機器用カバーガラス、太陽電池用ガラス基板、タッチパネル用ガラス基板など、次々と製品ラインナップを拡げています。



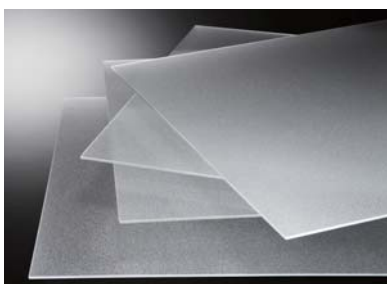
建築物や太陽電池など多彩な用途で活躍する
化学強化特殊ガラス「Leoflex®」



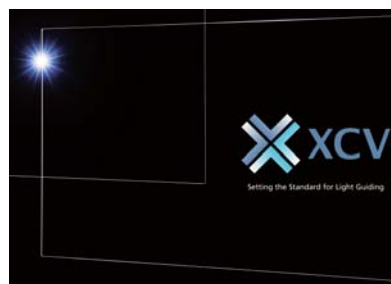
電子機器用カバーガラス
化学強化用特殊ガラス「Dragontrail®X」



電子機器向けに世界最薄を実現
タッチパネル用ガラス基板



薄膜シリコン太陽電池の発電効率を向上
太陽電池用TCO基板



液晶ディスプレイの薄型化を実現
導光板用ガラス「XCV®」

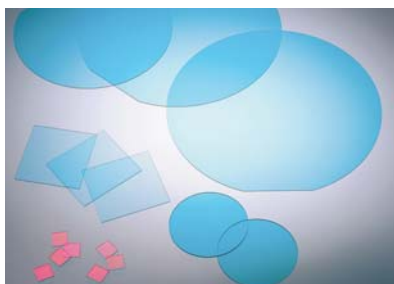
電子部材事業

ガラスや化学、セラミックス事業で培った素材、加工、表面処理、成形などの高度な技術を活かし、最先端のエレクトロニクス産業を支える電子部材事業。世界でトップレベルのシェアを誇る合成石英ガラスをはじめ、高純度

SiC治具などの半導体プロセス部材、スマートフォン・デジタルカメラ向け色調補正用フィルターなどの光部材、絶縁や封着に用いられるガラスフリット・ペーストといったディスプレイ部材など、幅広い製品を提供しています。

主要製品の市場シェアランキング
(当社調べ/2015年度概算データ)

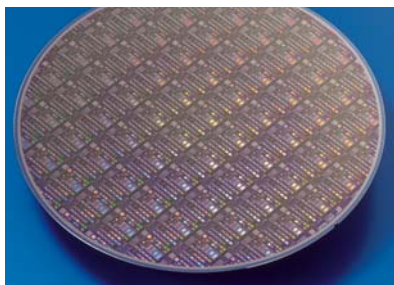
ステップレンズ用
石英素材
世界No.1



イメージセンサーを人間の視感度に合わせるデジタルカメラ向け色調補正用フィルター



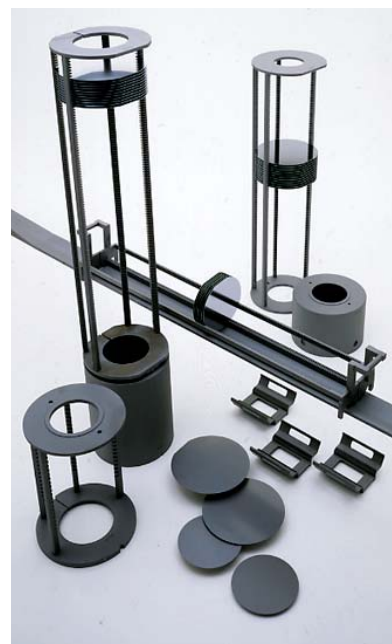
半導体プロセス用に高品質を実現合成石英ガラス



高平坦化された多層構造を実現CMPスラリー・研磨ソリューション



多彩な分野で絶縁、気密封着などに活用ガラスフリット



半導体プロセスの熱処理などに活用高純度SiC治具「ロイセラム™-HS」



映像表示に革新をもたらすTFT液晶用ガラス基板

事業紹介

化学品

基礎化学品からフッ素系高機能化学品まで、豊かで安全・安心な社会や環境保全に役立つ多彩な製品・ソリューションを提供しています。

化学品事業

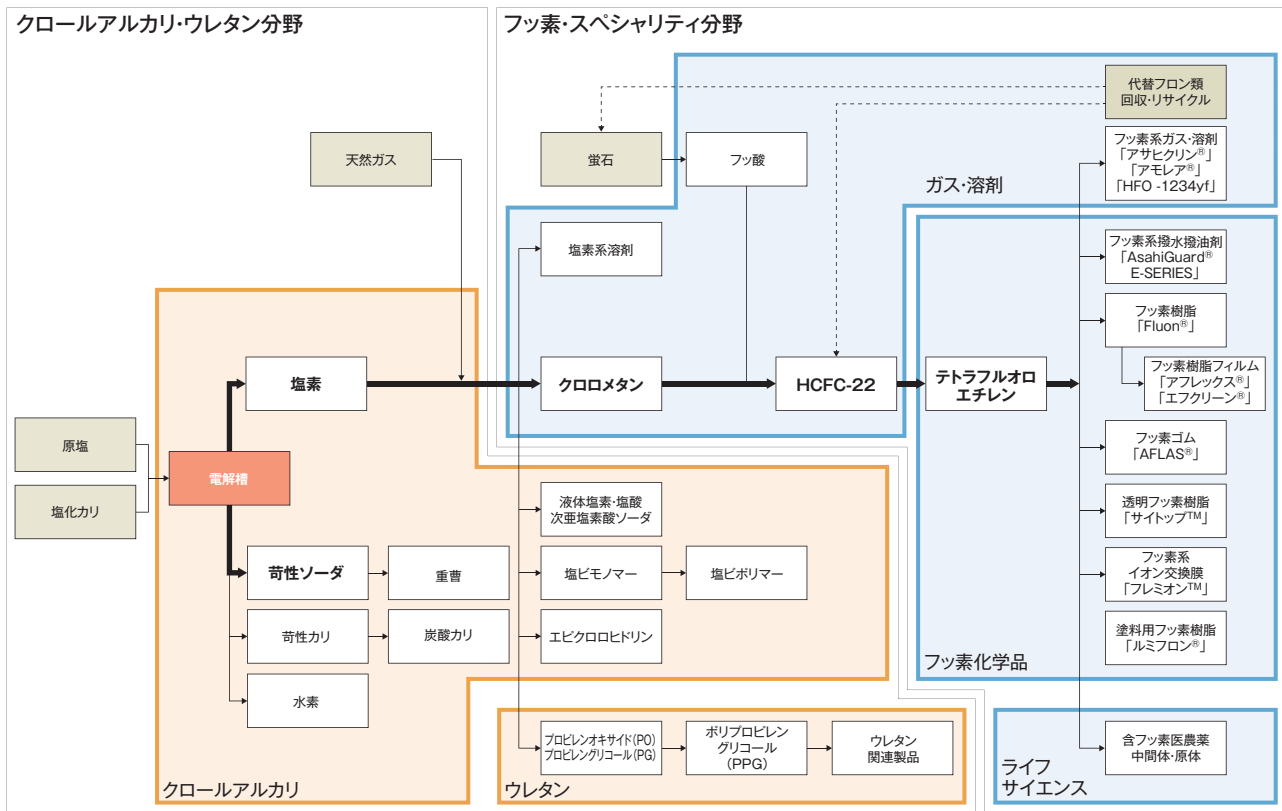
ガラスの主原料であるソーダ灰の生産から始まった化学品事業。化学反応過程で生まれる副産物をムダなく活用することで、多彩な製品を生み出す独自のケミカルチェーンを確立しています。

環境負荷を最小限に抑えながら、苛性ソーダなどの基礎化学品から、世界トップシェアを誇るフッ素樹脂 (Fluon® ETFE) などの高機能化学品まで、幅広く提供しています。

主要製品の市場シェアランキング
(当社調べ/2015年度概算データ)

フッ素樹脂 (Fluon® ETFE)
世界No.1

AGCのケミカルチェーン



■ クロールアルカリ・ウレタン分野

苛性ソーダや重曹など、さまざまな産業に不可欠な汎用性の高い基礎化学品を提供しています。また、断熱材や自動車のシートなど、快適な生活に欠かせない製品の素材に用いられるウレタン関連製品も製造・販売しています。



マットレス、カーシートなどに用いられるウレタンフォーム原料「エクセノール™」



人工透析の輸液など医薬分野でも活躍する重曹(重碳酸ナトリウム)

■ フッ素・スペシャリティ分野

世界トップシェアを有するフッ素樹脂(Fluon® ETFE)をはじめ、耐熱性・耐薬品性・耐候性において優れた特性を評価されているフッ素化学品。自動車・航空機産業で注目を集めるフッ素樹脂・フッ素ゴム、建築分野で使われるフッ素



光透過性・耐候性に優れ、幅広い用途で活躍するフッ素樹脂フィルム「アフレックス®」



環境負荷を低減する次世代カーエアコン用冷媒「HFO-1234yf」
(注)写真は製造プラント

樹脂フィルム・塗料用フッ素樹脂、電子・ディスプレイ分野向けの多機能材料など、さまざまな高機能製品が多彩な産業分野で採用されています。さらに医薬・農薬中間体・原体なども提供し、ライフサイエンス分野にも寄与しています。



建築・構造物用として高い耐候性を発揮する塗料用フッ素樹脂「ルミフロン®」



緑内障治療薬に用いられる医薬原体「タフルプロスト」
(注)参天製薬株式会社と共同開発した緑内障・高眼圧症治療剤



フッ素樹脂フィルム「アフレックス®」が採用されたドイツのサッカースタジアム「アリアンツ・アリーナ」

事業紹介

セラミックス・その他

長年培ってきたセラミックス技術を駆使して、ガラス生産工程の革新や地球環境保全に貢献する多彩な製品・ソリューションを提供しています。

セラミックス事業

AGCグループのセラミックス事業は、1916年、ガラス溶解窯用耐火煉瓦の生産から始まった歴史ある事業です。現在はAGCセラミックス社が、耐火物製品の幅広いラインナップと高度なエンジニアリング技術を軸に「ガラスエンジニアリング」「環境エネルギー」の2つ

の領域で事業を展開しています。ガラスエンジニアリング分野では、高耐用・高機能の電鍍煉瓦とそれらを活かしたソリューションにより、ガラス窯の省エネ・長寿命化と安定操業、ライフサイクルコストの削減を目指しています。環境エネルギー分野では、工業炉の省

エネ・環境負荷低減に貢献する不定形耐火物などを用いて、多彩な環境ソリューションを提供しています。さらにファインセラミックス系の高温ファン、エコガラス用スパッタリングターゲットなど、地球環境に配慮したセラミックス材料の開発にも注力しています。



ヒートアイランド現象の解消に寄与する舗装路面用遮熱セラミックス材料「タフクーレ®」



高温下での長期使用にも高い断熱性・耐久性を発揮省エネによるコストダウンを実現する高断熱セラミックス耐火物「THERMOTECT®」



幅広いラインナップで工業炉の安定操業を支える工業炉用不定形耐火物

ガラス溶解窯用大迫電鍍煉瓦

事業領域を越えて

AGCグループは、ガラス、電子、化学品、セラミックスなど
それぞれの事業分野で培った多岐にわたる技術を融合。
新たな市場に向けて、より付加価値の高い製品を生み出しています。

次世代コミュニケーション市場へ

身の回りのあらゆるガラスを情報のインターフェイスに。

ガラス一体型デジタルサイネージ 「inforverre® (インフォベール™)」

液晶ディスプレイを貼り付けることで、
ガラスが情報発信機器へと進化

建築物の外装・内装のガラス面に液晶ディスプレイを直に貼り付けることで、映像が空中に浮かび上がるような効果を発揮するデジタルサイネージ「inforverre®」。化学品事業で培った光学接合技術により、乱反射のないクリアな画質を実現しました。

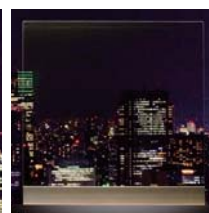
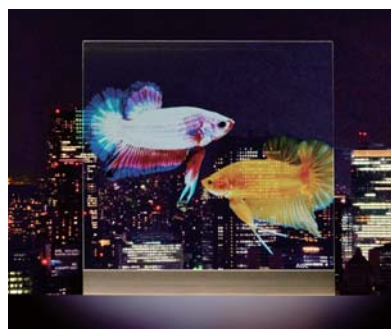


東京・新丸の内ビルディングに採用。55インチの液晶ディスプレイを貼り付け、広告宣伝映像を配信している。デジタルサイネージアワード2015「技術・ハード部門」で入賞

透明ガラススクリーン 「Glascene® (グラシーン®)」

透明なガラスへの映像投影を実現し、
プロジェクターの新たな可能性を開拓

ガラスに特殊な加工を施し、プロジェクターの映像を投射できるようにした「Glascene®」。映像を映し出しながら、背景の景色も妨げない、新しいタイプのスクリーンです。前面・背面いずれからの投射にも対応でき、100インチ以上の大画面も実現可能です。



映像を投影しない場合は普通のガラス

背景の景色を活かした映像投影など、効果的な使い方ができる

次世代モビリティ市場へ

使い心地のよいタッチパネルでクルマ空間を快適に。

コンソールパネル用カバーガラス

電子機器用カバーガラスの技術を応用し、
快適・確実なタッチパネル操作を実現

近年、自動車分野では、オーディオやカーナビ、エアコンなど、各種の車載機器の操作を統合する技術の開発が進んでいます。これらの操作を行うコンソールパネル向けとして、高い強度や耐傷性、低反射性を備えた電子機器用カバーガラス「Dragontrail®」の導入が始まっています。



イノベーションマネジメント

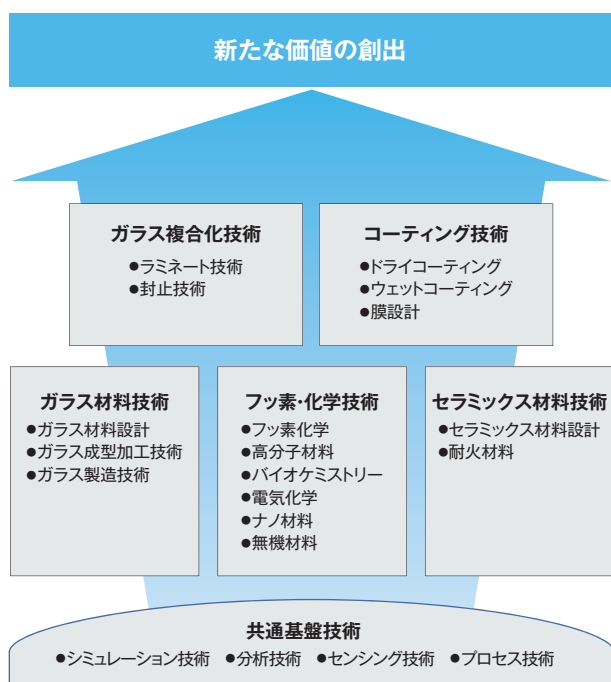
多様なコアテクノロジーを掛け合わせ 新たなイノベーションを創出していきます。

コアテクノロジー

AGCグループは、社会の多様なニーズに対応する「ガラス材料技術」や「セラミックス材料技術」をはじめ、製品の高付加価値化を実現する「コーティング技術」「ガラス複合化技術」、先進的な高機能製品を生み出す「フッ素・化学技術」といった多彩なコアテクノロジーを蓄積しています。さらに、こうした技術開発を支える「共通基盤技術」として、シミュレーション技術や分析技術、センシング技術、プロセス技術などの高度化にも力を注いでいます。

AGCグループでは、これらの掛け合わせによって生まれる膨大な技術の“引き出し”を駆使することで、お客様のニーズや課題に応え、産業・社会に新たな価値をもたらすイノベーションの創出に挑んでいます。

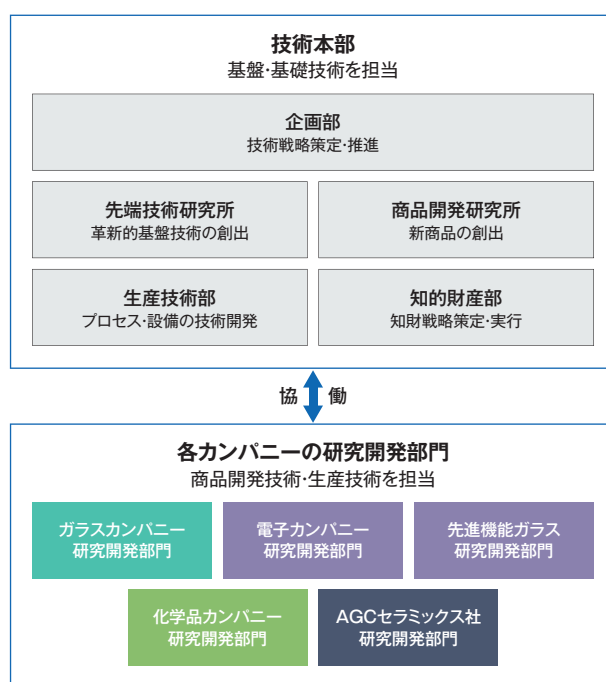
コアテクノロジーマップ



研究開発体制

AGC旭硝子は、より競争力のある革新的なコアテクノロジー・新商品の開発に向けて、2016年1月、研究開発組織を再編しました。技術本部内に新設された「先端技術研究所」は、革新的なコアテクノロジーの創出に挑むとともに、最先端の共通基盤技術による商品開発支援を担います。同じく新設された「商品開発研究所」は、新商品の創出と既存製品の技術的な課題解決を推進します。「生産技術部」は、生産技術の開発・改善などを担当します。AGC旭硝子では、これらに「企画部」「知的財産部」を加えた技術本部内の5つの組織とカンパニーの研究開発部門が緊密に連携しながら、「マーケットと開発をつなぐ」という姿勢のもとに研究開発を機動的に進めています。

競争力向上に向けた研究開発体制





イノベーションへのアプローチ

中長期的かつグローバルな視点のもとに スピード感あるイノベーションを推進

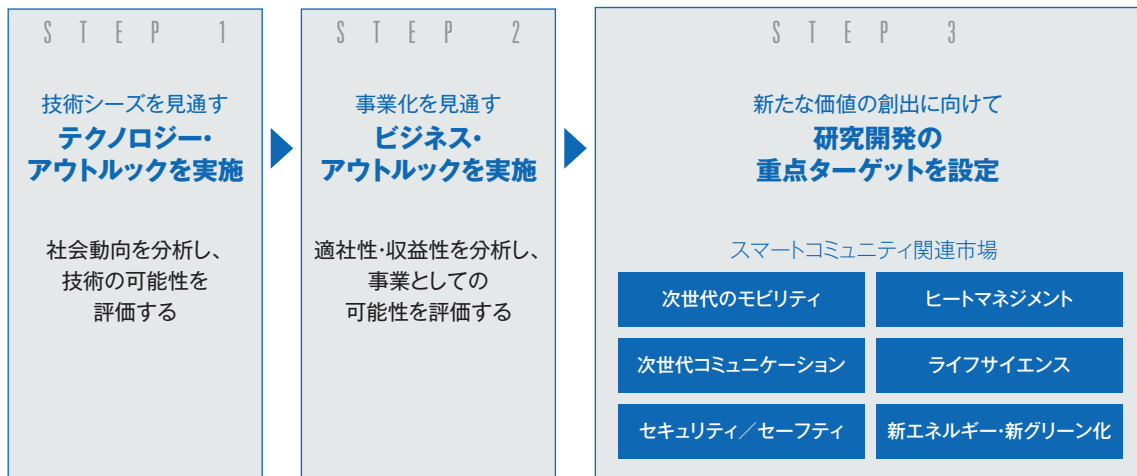
AGCグループは、中長期的な研究開発の方向性を定めるために、製品・技術に関する10年後、20年後のニーズを予測した「テクノロジー・アウトルック」を実施する一方、その製品・技術に対する「自社の適性」や「事業継続性」などをサーベイした「ビジネス・アウトルック」を実施しています。こうして技術シーズと事業性の両面から詳細に調査・分析した結果、今後の研究開発の重点ターゲットを「スマートコミュニティ関連市場」に定め、現在、積極的な技術開発・事業開発を推進しています。

新たな製品・技術を確実に事業化していくには、「マーケットと開発をつなぐ」ための取り組みが重要になります。そこでAGCグループでは、日本国内はもちろん、大学や企業研究機関が集まる欧米や東南アジアなどの主要拠点に専門の人材を派遣して、最先

端の技術情報や市場動向をリサーチする「グローバル・テクノロジー・ネットワーキング(GTNET)」活動を展開しています。グローバル規模でマーケティングと開発の連携を強化し、新たな事業シーズの開拓に努めるとともに、技術蓄積やビジネスネットワークの拡大を図っています。

さらに研究開発においては、オープンイノベーションを積極的に推進しています。戦略提携やM&Aなどを通じて社外のリソースを幅広く活用することで、技術の“引き出し”を一層充実させ、技術革新や新市場創出を促進するとともに、製品開発のリードタイム短縮を図っています。また、スマートコミュニティ関連などの国家プロジェクトに積極的に参加し、複数の企業・研究機関との協業に力を注いでいます。

研究開発における重点ターゲットの設定プロセス



重要項目を明確に定め、企業経営と一体化したCSRマネジメントを推進しています。

CSRの考え方と関連方針

AGCグループは、「私たちの使命」「私たちの価値観」「私たちのスピリット」からなるグループビジョン“**Look Beyond**”（→P2参照）を定めています。これをベースに、経営方針“**AGC plus**”で掲げる「あらゆるステークホルダーにプラスの価値を提供する」ことで、社会からの信頼・期待を獲得し、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。

また、当社グループが果たすべき社会的責任を示した「AGCグループ企業行動憲章」、全従業員が順守すべき事項をまとめた「AGCグループ行動基準」を制定しています。

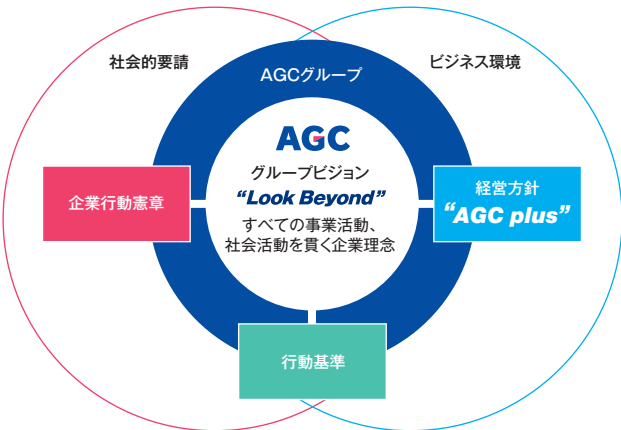
推進体制

AGCグループは、CSRを推進する社内組織として、2005年に「CSR委員会」を設置しました。年4回開催するCSR委員会は、グループCEOが委員長を務め、事業およびコーポレートの各部門長がグループのCSRに関わる全体方針や課題について審議しています。

CSR委員会での審議結果は、コンプライアンス、EHSQ(注1)マネジメント、リスクマネジメントなどの専門部会を通してグローバルに共有され、カンパニーやSBU(注2)の各施策に反映されています。

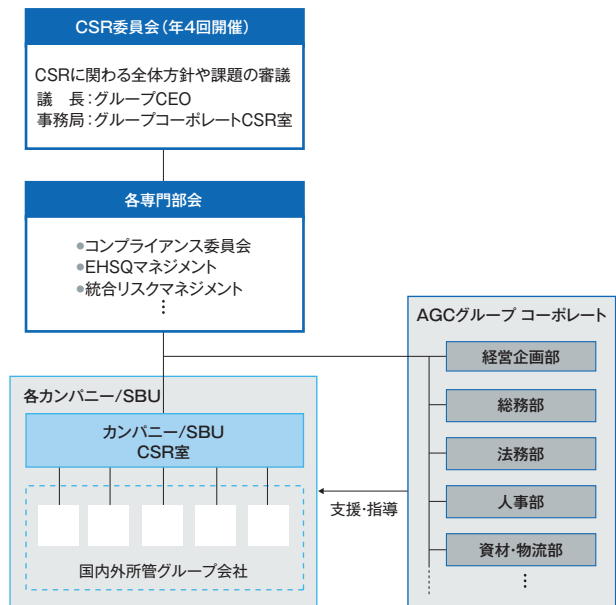
(注1) EHSQ: Environment (環境), occupational Health & Safety (労働安全衛生) and Quality (品質) の略
 (注2) SBU: Strategic Business Unit の略。戦略事業単位

CSRの関連方針



- **企業行動憲章**
 AGCグループが善良な企業市民であるために行動の基盤とすべき考え方を定め、社会に対して宣言したもの
- **行動基準**
 グループメンバーが仕事をする上で順守しなければならない事項をまとめたもの
- **経営方針“AGC plus”**
 グループの事業活動の具体的な方針、経営環境の変化や自社の状況に応じて、必要であれば見直していくべきもの

CSR推進体制図



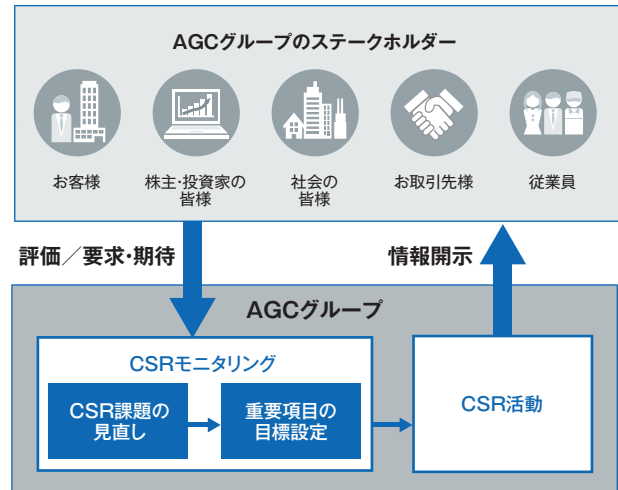


PDCAサイクルと重要項目

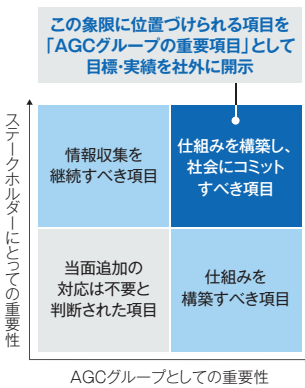
AGCグループは、CSR活動をステークホルダーの視点で評価し、社会から必要とされる施策を強化していくために、ISO26000を活用した「CSRモニタリング」の仕組みを2011年から運用しています。

具体的には、CSR課題を重要性により4象限に分類し、「CSR課題マトリクス」を作成。ステークホルダーとAGCグループ双方にとって重要な「仕組みを構築し、社会にコミットすべき項目」を重要項目と定め、目標と実績をステークホルダーの皆様にCSRホームページなどを通じて報告しています。

CSRのPDCAサイクル



CSR課題マトリクス



ISO26000に対応するAGCグループの重要項目

ISO26000の項目		AGCグループの重要項目
中核主題	課題	
組織統治	意思決定のプロセス及び構造	組織統治
	労働条件及び社会的保護	適正な労働環境
人権と労働慣行	労働における安全衛生	労働安全衛生
	職場における人材育成及び訓練	人材育成
環境	汚染の予防	汚染の予防
	持続可能な資源の利用	持続可能な資源利用
	気候変動の緩和及び適応	気候変動への対応
公正な事業慣行	汚職防止	汚職防止
	公正な競争	独禁法の順守
	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	サプライチェーンにおける社会的責任
消費者課題	消費者の安全衛生の保護	製品の安全性

WEB CSRマネジメントおよびCSR活動の詳細については、CSRホームページ (www.agc.com/csr/) をご覧ください。

コーポレート・ガバナンス

経営監視の透明性と経営執行の機動性を高め、
コーポレート・ガバナンスの強化・充実を図っています。

コーポレート・ガバナンスの考え方

AGC旭硝子は、「AGCグループ コーポレートガバナンス基本方針」を制定し、AGCグループの持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現するために、コーポレート・ガバナンスの強化と充実に取り組んでいます。

また、AGC旭硝子は親会社・子会社の枠を超えたAGCグループ全体の経営を前提に、監査役会設置会社として、コーポレート・ガバナンス体制の基本的な考え方を以下の通り定めています。

- 経営監視機能と経営執行機能を明確に分離すること
- 経営執行におけるコーポレート機能と事業執行機能を明確に分離すること

経営監視体制

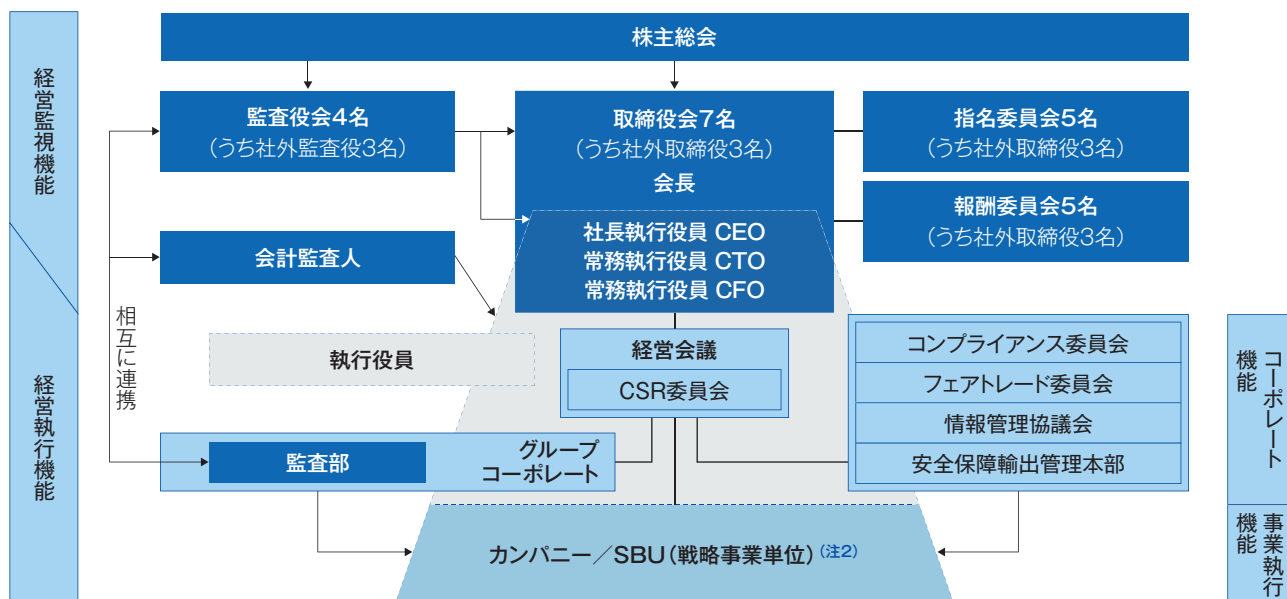
取締役会の構成と機能

AGC旭硝子の取締役会は、3名の社外取締役（うち女性の取締役1名）を含む計7名（任期1年）の取締役で構成されており（注1）、AGCグループの基本方針承認と経営執行監視の機能を担っています。

経営監視機能を強化するため、AGC旭硝子は2002年から社外取締役を採用しています。その選任にあたっては、日本の会社法の要件に加え、独立性を確保するための独自の基準を設定しています。

社外取締役は、グローバルな企業経営における豊富な経験や、コーポレート・ガバナンスに関する知見に基づき、独立した客観的な立場から、経営全般に対する監視や助言を行

コーポレート・ガバナンス体制の概要 (2016年3月30日現在)



(注2) カンパニーは売上高が概ね2,000億円を超え、グローバルに事業を展開する事業単位と位置づけしており、現在、「ガラス」「電子」「化学品」の3つのカンパニーを設置。それ以下の規模の事業単位はSBU(戦略事業単位:ストラテジックビジネスユニット)として位置づけられています。



います。また、取締役会の議長は、原則として、社外取締役が務めることとしています。

(注1)2016年3月30日現在

取締役会の概要 (2015年度)

開催回数	13回
取締役の出席率	95%

取締役会の実効性評価

AGC旭硝子は取締役会において、取締役会の実効性を分析・評価しています。その結果、AGC旭硝子の取締役会はAGCグループの基本方針承認と経営執行監視を担う機関として有効に機能しており、実効性が確保されていることを確認しました。

指名委員会・報酬委員会の構成と機能

AGC旭硝子は、取締役会の任意の諮問機関として、2003年から「指名委員会」と「報酬委員会」を設置しています。

各委員会の人数・役割・開催回数 (2015年度)

	人数	役割	開催回数
指名委員会	5名 (うち社外取締役3名)	取締役・執行役員候補者の審議、取締役会への推薦	3回
報酬委員会	5名 (うち社外取締役3名)	取締役・執行役員に関する報酬制度、株主総会に提案する取締役の報酬・取締役賞与、執行役員の報酬額の審議	8回

監査役会の構成と機能

監査役は、取締役会のほか経営会議などの重要な会議に出席するとともに、代表取締役との会合を定期的に開催することで、取締役の職務執行を監査しています。また、会計

監査人や内部監査機能を有する監査部と連携し、監査結果などの確認や意見交換を行い、監査の実効性を高めています。なお、監査役4名のうち3名が社外監査役です(注3)。

(注3)2016年3月30日現在

監査役会の概要 (2015年度)

開催回数	13回
監査役の出席率	100%

社外役員の独立性確保

AGC旭硝子は、社外取締役と社外監査役の独立性を確保するための基準を定めています。

社外取締役に対しては、取締役会の事務局である経営企画部が、取締役会の開催通知や資料の事前配布を行うとともに、必要に応じて取締役会付議事項について事前に十分な説明を実施し、実効性のある監督ができるようサポートしています。

また、社外監査役に対しては、監査役会事務局が、監査役会の開催、重要な会議への出席、代表取締役や会計監査人との会合等の調整などを補助しています。

経営執行体制

AGC旭硝子の経営執行機能は、社長執行役員以下の執行役員が担っています。また、社長執行役員の諮問機関として、経営会議を設置し、経営執行の意思決定および事業経営の監視について審議しています。

事業執行においては、カンパニー(社内疑似分社)制を導入しており、グローバル連結運営体制を採用するとともに、責任と権限をカンパニー/SBU(戦略事業単位)に大幅に委譲しています。

報酬制度

役員報酬に関する基本的な考え方

AGC旭硝子は、報酬原則において、役員報酬全般に関わる基本的な姿勢および考え方を定めています。

- 競争優位の構築と向上のため、多様で優秀な人材を引き付け、確保し、報奨することのできる報酬制度であること
- 企業価値の持続的な向上を促進するとともに、それにより株主の皆様と経営者の利益を共有する報酬制度であること
- AGCグループの持続的な発展を目指した経営戦略上の業績目標達成を動機づける報酬制度であること
- 報酬制度の決定プロセスは、客観的で透明性の高いものであること

役員報酬の構成

執行役員を兼務する取締役の報酬は、固定報酬である月例報酬、業績連動報酬である賞与および株式報酬型ストックオプションで構成しています。執行役員を兼務しない取締役については、月例報酬と株式報酬型ストックオプションで構成しています。また、社外取締役および監査役については、月例報酬のみとしています。

各役員における報酬の構成

	報酬の種類		支給対象者
	固定報酬	月例報酬	
取締役	固定報酬	月例報酬	すべての取締役
	業績連動報酬	業績連動賞与	執行役員を兼務する取締役
株式報酬型ストックオプション			社外取締役を除く取締役
監査役	固定報酬	月例報酬	すべての監査役

なお、賞与は、単年度業績目標達成へのモチベーション促進を目的として、単年度の連結業績に応じて変動する仕組みとしています。また、株式報酬型ストックオプションは、株価変動のメリットやリスクについても株主の皆様と共有し、中長期での業績および企業価値向上への貢献意欲や士気を向上させることを目的としています。

報酬の決定プロセス

報酬委員会において、報酬原則を踏まえ、取締役および執行役員の報酬制度・水準などを審議し、取締役会に提案するとともに、報酬支払結果を検証することによって、報酬の決定プロセスに関する客観性および透明性を高めています。

各役員における報酬等の支給人数・支給総額(注1)(2015年度)

	支給人数(名)	支給総額(百万円)
取締役	9	439
うち社外取締役	3	46
監査役	6	93
うち社外監査役	5	57

(注1) 2015年3月で退任もしくは辞任した取締役および監査役(社外含む)計4名に係る報酬が含まれています。

内部統制

AGC旭硝子は、会社法に対応し、コンプライアンス体制を含めた適正な業務遂行の仕組みを改めて確認するため、2006年5月に「内部統制に関する基本方針」を制定しました。

また、金融商品取引法に基づく内部統制報告制度の導入に伴い、「AGCグループ財務報告に係る内部統制実施規程」を定め、財務報告に係る内部統制を整備・運用しています。

取締役・監査役および執行役員

取締役



代表取締役会長
石村 和彦



代表取締役社長
島村 琢哉



取締役
平井 良典



取締役
宮地 伸二



取締役(社外)
坂根 正弘

2011年3月選任
指名/報酬委員会メンバー
(株)小松製作所 相談役
東京エレクトロン(株) 社外取締役
野村ホールディングス(株) 社外取締役
野村證券(株) 社外取締役
武田薬品工業(株) 社外取締役
鹿島建設(株) 社外取締役



取締役(社外)
木村 宏

2013年3月選任
指名/報酬委員会メンバー
日本たばこ産業(株) 特別顧問
野村ホールディングス(株)
社外取締役



取締役(社外)
江川 雅子

2014年3月選任
指名/報酬委員会メンバー
一橋大学大学院 商学研究科教授
東京海上ホールディングス(株)
社外取締役
三井不動産(株) 社外取締役

執行役員

社長執行役員

CEO
グループ改善活動担当
島村 琢哉

専務執行役員

ガラスカンパニー プレジデント
田村 良明

常務執行役員

ガラスカンパニー
オートモーティブ事業本部長
石河 希久

ガラスカンパニー
ビルディング・産業事業本部長
(AGCガラス:ヨーロッパ 社長)
ジャン フランソワ エリス

CTO
技術本部長
電子カンパニー・先進機能ガラス
事業本部担当
グループ改善活動補佐
平井 良典

経理・財務部長
竜野 哲夫

CFO
経営企画部長
安全保障輸出管理本部長
グループ改善活動補佐
宮地 伸二

電子カンパニー プレジデント
小林 善則

化学品カンパニー プレジデント
根本 正生

執行役員

ガラスカンパニー 戦略・企画室長
大井 匡之

総務部長
川上 真一

AGCセラミックス(株) 社長
島尾 明伸

技術本部 先端技術研究所長
瀧川 具也

AGCグループ中国総代表
新保 貴史

AGCグループ東南アジア総代表
市川 公一

電子カンパニー
ディスプレイ事業本部長
渡邊 一由

ガラスカンパニー
オートモーティブ事業本部
副本部長
岡本 喜八郎

技術本部 生産技術部長
井上 滋邦

技術本部 商品開発研究所長
渡辺 広行

化学品カンパニー
技術統括本部長
井手 孝康

電子カンパニー
ディスプレイ事業本部 副本部長
兼 同事業本部 営業統括部長
鷲ノ上 正剛

化学品カンパニー
基礎化学品事業本部長
古賀 和朗

経営企画部 戦略企画室長
森山 賢三

化学品カンパニー
フッ素化学品事業本部長
湊 崇静

ガラスカンパニー
ビルディング・産業事業本部
副本部長
兼 同事業本部
日本・アジア事業部長
武田 雅宏

人事部長
簾 孝志

ガラスカンパニー
オートモーティブ事業本部
日本・アジア事業部長
杉山 達夫

電子カンパニー
電子部材事業本部長
杉山 孝久

監査役

梅本 周吉
丸森 康史(社外)
原 徹(社外)
河村 博(社外)

2016年3月30日現在

100余年の歴史を越えて——これからも新しい時代の豊かな社会づくりに貢献していきます。

1900~	1920~	1940~
創生期		
<p>グローバル経営の発展</p> <p>1907 兵庫県尼崎にて旭硝子株式会社を創立(画像は創業者の岩崎俊彌)</p>  <p>1914 英国向けに初めて板ガラスを輸出</p> <p>1917 本社を東京へ移転</p>	<p>1925 中国に昌光硝子を設立。旭硝子初の海外ビジネスがスタート</p>  <p>1933 創立25周年を記念し、財団法人旭化学工業奨励会(現 旭硝子財団)を設立</p> <p>1937 東京株式取引所に株式上場</p>	<p>1952 インドネシアと電解苛性ソーダのプラント輸出契約を締結</p> <p>1955 品質管理の技法をいち早く導入し、デミング賞実施賞を受賞</p>  <p>1956 インドにガラス製造会社を設立。民間他社に先駆けて海外事業を展開</p> <p>1957 創立50周年を記念し、財団法人旭硝子奨学会を設立</p>
<p>製品・技術の進化</p> <p>1909 ベルギー式手吹円筒法により日本で初めて板ガラスの工業生産を開始</p>  <p>1916 溶解窯に用いる耐火煉瓦の長寿命化に向けて自社生産を開始</p>  <p>1917 板ガラスの主原料であるソーダ灰の自社生産を開始</p>	<p>1928 フルコール式による普通板ガラスの生産を開始</p> <p>1933 アンモニア法による苛性ソーダの生産を開始</p>  <p>1938 強化ガラス、合わせガラスの生産を開始</p> <p>1939 伊保工場にて耐火煉瓦の生産を開始</p>	<p>1954 複層ガラス「ペヤグラス®」の生産を開始</p> <p>1955 テレビのブラウン管用ガラスバルブの生産を開始</p>  <p>1956 需要急増に応じて自動車用加工ガラス事業に本格進出</p> 
<p>1914-1918 第一次世界大戦</p>	<p>1923 関東大震災発生</p> <p>1929 アメリカで世界恐慌発生</p> <p>1939-1945 第二次世界大戦</p>	<p>1951 サンフランシスコ講和条約締結</p> <p>1953 テレビ放送が開始</p> <p>1954-1957 神武景気</p>

1960~

成長・拡大期

1980~

2000~

グローバル経営体制へ

1964

タイの板ガラス市場に参入



1972

インドネシアでガラス事業を開始



1981

ベルギーのGlaverbel社を買収。欧州の板ガラス市場に本格参入



1985

米国の自動車用ガラス事業に本格参入

1986

インドネシアでのクロールアルカリ事業に本格参入

1997

ロシアのガラス市場に参入



2002

グループビジョン“Look Beyond”を策定。カンパニー制を導入

2007

創立100年を機にグループブランドを「AGC」に統一

AGC

2013

“南米で最も環境にやさしい”ブラジル工場が竣工。ブラジルの板ガラス市場に参入



2013

東南アジア地域での事業拡大を見込みシンガポールに地域統括拠点を設置

2015

経営方針“AGC plus”がスタート

1961

プロピレンオキシド・プロピレングリコールの生産を開始

1966

平坦で大きなガラスをつくれる新技術・フロート法による板ガラスの生産を開始



1972

撥水撥油剤「アサヒガード®」、フッ素樹脂「Aflon™ COP」を開発

1975

苛性ソーダ製造用のイオン交換膜「フレミオン™」電解法を開発



1980

イオン交換膜法による新電解技術「AZECシステム」を開発

1982

塗料用フッ素樹脂「ルミフロン®」の生産を開始

1990

透明フッ素樹脂「CYTOP®」を開発

1995

TFT液晶用ガラスの生産を開始



2005

自動車ドア用赤外線カットガラスの販売を開始

2008

高機能フッ素樹脂フィルム「アフレックス®」が北京開催の世界的スポーツイベント施設に採用

2011

スマートフォン・タブレット向けガラス「Dragontrail®」を全世界に向けて販売を開始

2011

自動車ドア用強化ガラス「UVベール Premium Cool on®」の販売を開始



2015

環境負荷の低い次世代の自動車用冷媒HFO-1234yfの供給を開始

1960

カラーテレビの本放送開始

1964

東海道新幹線開業、東京オリンピック開催

1970

日本万国博覧会(大阪万博)開催

1973、1979

オイルショック(第一次、第二次)

1983

インターネットが誕生

1985

プラザ合意

1993

欧州連合(EU)発足

1997

京都議定書採択

2003

地上デジタル放送開始

2008

リーマン・ショック発生

2011

東日本大震災発生

2014

FIFA ワールドカップブラジル大会開催

各ステークホルダーを対象とした主なコミュニケーションツール

お客様（一般消費者を含む）

AGCレポート2016 （本レポート）



企業姿勢をはじめ事業戦略・事業活動などを幅広く紹介

すべてのステークホルダーの皆様



AGC旭硝子ホームページ
www.agc.com

AGCグループに関する情報を幅広く、詳しく、タイムリーに発信

株主・投資家の皆様



フィナンシャル・レビュー

事業概況および連結財務諸表を含む財務内容を報告 (PDF版・英文のみ)

CSR関連専門家^(注1)、CSRに関心があるステークホルダーの皆様



CSRホームページ
www.agc.com/csr/

AGCグループが果たす社会的責任をG4^(注2)の「中核」に準拠し網羅的に報告



CSR情報 資料編

非財務データおよびCSR活動に係る各種方針・推進体制を報告 (PDF版のみ)

(注1) ESG調査会社など (注2) GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン第4版」

報告対象範囲

- 報告対象期間 2015年度 (2015年1月～12月)
一部の情報は2014年度および2016年度の内容を含みます。
- 報告対象組織 旭硝子 (株) および連結対象の国内外グループ会社204社
- 文中の主な表記と報告対象

AGCグループ/当社グループ	左記の「報告対象組織」と同様
AGCグループ(日本)	旭硝子 (株) を含む国内のグループ会社
AGC旭硝子/当社	旭硝子 (株) (単体)

関連情報

WEB このマークが付いている内容は、関連情報が「AGC旭硝子ホームページ」(www.agc.com)に掲載されています。

発行日

2016年4月 (前回発行日 2015年5月)

将来に関する予測・予想・計画について 本レポートは、編集段階で入手できる最新の情報に基づいて作成していますが、将来予測などの情報については、事業環境の変化などにより、結果や事象が予測とは異なる可能性があります。あらかじめご了承ください。

AGC 旭硝子

www.agc.com

〒100-8405 東京都千代田区丸の内1-5-1

経営企画部 広報・IR室

電話:03(3218)5603 FAX:03(3218)5390



この印刷物に使用している用紙は、森を元気にするための間伐と間伐材の有効利用に役立ちます。

